

林野庁 近畿中国森林管理局
箕面森林環境保全ふれあいセンター

平成 23 年度 活動報告(年報)



目 次

はじめに	
自然再生への取組	1
森林環境教育への支援	21
森林ボランティア活動への支援	27
グループ対抗里山デジカメ選手権	28
その他	30



2011・国際森林年

はじめに

「森林環境保全ふれあいセンター」は林野庁の出先機関で、全国に11箇所設置されており、国有林野を活用し、NPO等が行う自然再生活動、生物の多様性の保全等や教職員その他の者が行う森林環境教育等に対して、技術的指導その他の支援等の取組を行っています。

箕面森林環境保全ふれあいセンターは、平成16年4月に設置され8年が経過し、今年度は次のような活動に取り組みました。

- ①箕面国有林のエキスポ'90みのお記念の森一帯（大阪府箕面市）において、森林環境教育のフィールドとして活用しつつ、多様性豊かな里山の再生と生物多様性の向上に資するため、平成20年5月に策定した「箕面体験学習の森」整備方針に基づき整備を行うとともに、小学生・幼稚園児・ボランティアなどの住民参加により、クヌギ・コナラをドングリから育てる「オオクワガタの棲める森づくり」として植樹・下刈等の実施、
- ②大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策指針を作成するため、三重県と奈良県の県境に位置する大台ヶ原一帯において、関係行政機関・NPO等と連携し、ニホンジカの生息状況及び森林被害の現況把握調査等の実施、
- ③小学校の新学習指導要領に示された各学年・各教科の指導内容に対応し、森林環境教育の指導計画を明確にするため、小学校教員向けの「森林環境教育手引書」の作成、
- ④教育関係機関や森林ボランティア団体等と連携し、従来の小・中学校の教員に、幼稚園教員も対象にして森林環境教育セミナーの開催、
- ⑤森林ボランティアリーダー養成スクールフォローアップ事業として、多岐化する森林・林業及び環境に対するフレキシブルで、かつ視覚性に富んだボランティア活動指導の指針となる指導集を作成するため、各森林ボランティア団体の指導内容の収集、
- ⑥里山の再生・整備活動や森林環境教育に主眼を置き、「身近な森林の再発見！！」をテーマとして、学校、森林ボランティア、企業・家族等のグループを対象とした「グループ対抗里山デジカメ選手権」を「水都おおさか森林の市」とともに開催など。

平成23年度もほぼ計画どおり活動することができました。これも関係者の皆様のご理解とご協力によるものであり、心から感謝申し上げます。

平成24年3月

箕面森林環境保全ふれあいセンター所長 清水好美

自然再生への取組

「箕面体験学習の森」整備事業(Ⅱ)

趣旨

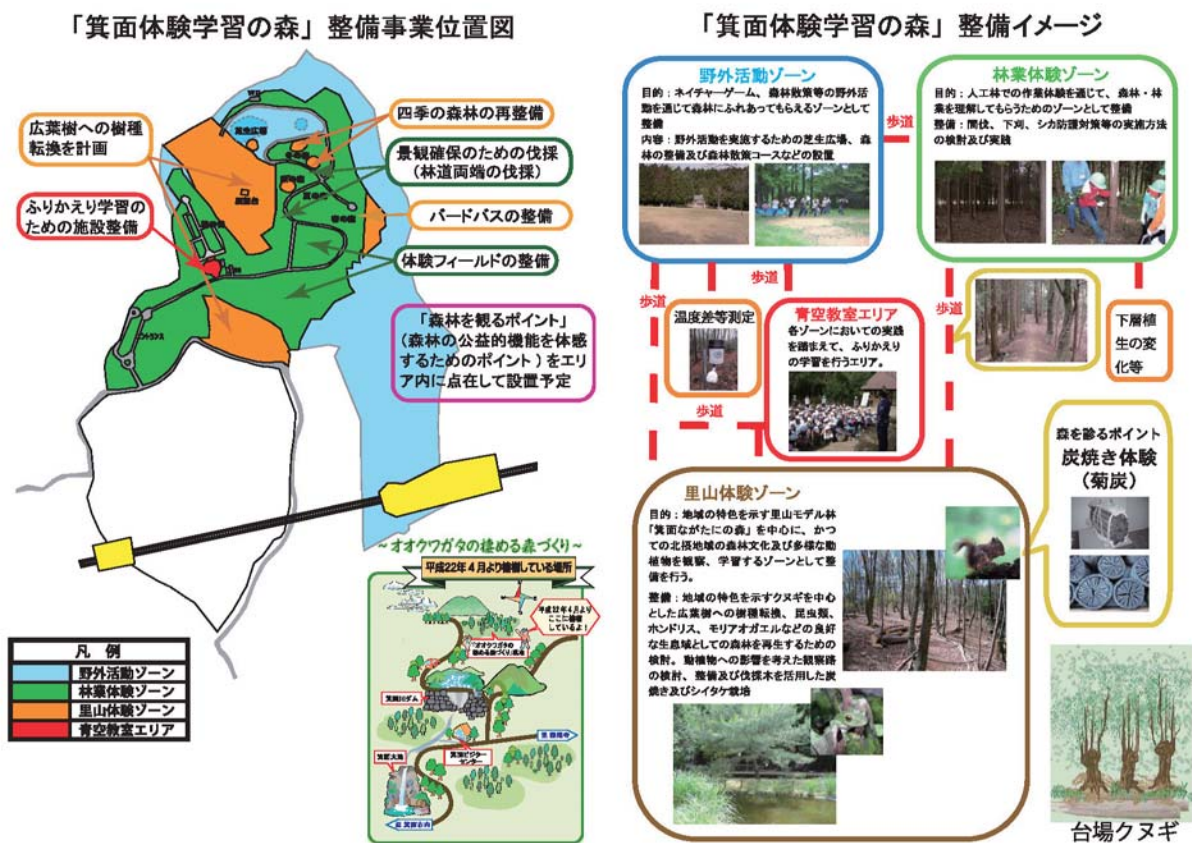
大阪府の北部に近接する箕面国有林を含む北摂地域は、かつて台場クヌギを仕立てて菊炭を生産するなど、活発な里山の利用が行われていましたが、現在では、スギ、ヒノキの人工林が大半を占めている状況にあります。

箕面森林環境保全ふれあいセンターでは、平成18年度まで里山再生推進モデル事業を実施し、具体的な里山再生メニューの決定及び里山整備、伐採木の利用、里山再生ガイドラインの作成等に取り組んできました。

これらの取組結果も踏まえ、里山モデル林を含む地域において、積極的な広葉樹の育成や伐採等による木材利用及び菊炭づくり体験など、森林環境教育のフィールドとして活用しつつ、多様性豊かな里山の再生と生物多様性の向上を目指し、平成20年5月に策定した「箕面体験学習の森」整備方針に基づく里山整備に着手しました。特に、展望台周辺のヒノキ、スギを伐採し、クヌギ、コナラなどの落葉広葉樹に転換する「オオクワガタの棲める森づくり」(別紙)プロジェクトを展開してきたところです。

今年度は「箕面体験学習の森」整備事業(Ⅱ)2年目として、植樹、保育等の施業を実施し、当該事業の目的達成に向けて取り組んでいます。

当該事業の実施に当たっては、京都大阪森林管理事務所やボランティア団体と連携・協力を密にするとともに、当該事業に関連した森林環境教育プログラムの普及啓発などの取組との有機的な連携を図っています。



「箕面体験学習の森」位置図及び整備イメージ図

事業内容

- 1 場所
大阪府箕面市 箕面国有林（エキスポ'90みのお記念の森）
- 2 内容
(1) 「箕面体験学習の森」整備事業(Ⅱ)検討委員会等の開催
(2) 「箕面体験学習の森」中心部において「オオクワガタの棲める森づくり」の実施

「箕面体験学習の森」整備事業(Ⅱ)検討委員会等

委員会・部会委員（五十音順、敬称略 ◎は座長及び部会長）

氏名	所属・職名	委員会	整備部会	利活用等検討部会
奥 敬一	(独)森林総合研究所関西支所 主任研究員	○	○	○
鎌谷計三	清水谷をまもる会 代表	○		○
神山鈴生	大阪府北部農と緑の総合事務所 緑地整備課長	○	○	○
服部 保	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 教授	◎	◎	
松山尚文	箕面市教育センター 所長	○		○
山下宏文	京都教育大学 教授	○		◎
山本 博	NPO法人 日本森林ボランティア協会 事務局長	○		

「箕面体験学習の森」整備事業(Ⅱ)全体計画の見直し(案)について検討 (第1回整備部会)

5月24日(火)に箕面市内で第1回整備部会を開催し、平成23年度における全体計画の見直し(案)等について説明し、委員の方々にご検討いただきました。

委員からは、「里山体験ゾーンとして展望台の対岸に残る森林の取扱いについては、利活用等検討部会で検討されたい」、「野外活動ゾーンのツリーハウスは安全面を考慮すれば、変更は止むを得ない」、「樹名板は地域の人たちや子どもたちといっしょに作ることも考えてほしい」、「植樹に向けて、苗木の育成状況を確認し、必要本数を確保すること」などの意見がありました。

また、展望台周辺の植樹箇所における苗木の生長や植樹の際に支障となるカラスザンショウなどの抜き取り作業及び通行等の安全を確保するための傾斜木等の伐採については、提案どおり実施することです承いただきました。



「箕面体験学習の森」整備事業(II)全体計画等について検討 (第1回検討委員会)

5月24日(火)に箕面市内で、整備部会に引き続き第1回検討委員会を開催しました。

当日は6名の委員にご出席いただき、服部兵庫県立大学教授に座長をお願いし、整備部会からの報告、全体計画見直し(案)及び植樹行事の開催について、議事を進めていただきました。

委員からは、「里山体験ゾーンとして展望台の対岸に残る森林の取扱い及び野外活動ゾーンにおける樹名板の設置等の活用方法については、利活用等検討部会で検討してほしい」などの意見がありましたので、当方で再度考え方を整理のうえ、現地での検討も含めて利活用等検討部会を開催し、活用案を検討することで了承を得ました。



里山体験ゾーン等の利活用等見直し(案)について検討 (第1回利活用等検討部会)

8月23日(火)に箕面国有林エキスポの森等で、現地検討会及び利活用等検討部会を開催し、委員の方々には現地を視察してもらい、第1回検討委員会等で意見があった里山体験ゾーン及び野外活動ゾーンの利活用等の見直し(案)について検討していただきました。

委員からは、里山体験ゾーンとして展望台の対岸に残る森林の取扱いについて、「法令制限等により伐採が困難で、ほかに利用方法がなく入込者も少ないようであれば、里山体験ゾーンから外すことで問題ない」との意見がありましたので、当該区域をゾーンから外し、今後は京都大阪森林管理事務所で行っていくことで了承を得ました。

また、野外体験ゾーンのツリーハウスに代わるものとして、オリエンテーリング施設及び樹名板の設置について住民参加型で実施することで、提案どおり了承いただきました。



里山体験ゾーン等の利活用等見直し(案)及び植樹行事について検討 (第2回検討委員会)

8月23日(火)に箕面市内で、利活用等検討部会に引き続き第2回検討委員会を開催しました。

当日は6名の委員に出席いただき、服部兵庫県立大学教授に座長をお願いし、利活用等検討部会からの報告、里山体験ゾーン及び野外活動ゾーンの利活用等の見直し(案)、植樹行事の開催について、議事を進めていただきました。

議事内容のうち、里山体験ゾーン及び野外活動ゾーンの利活用等の見直し(案)については、利活用等検討部会での内容と同様に了承いただきました。

また、植樹行事については、「野生動物から防ぐために、穴を掘って再生紙段ボール鉢を埋めるのであればその手間を考えると植え方を検討してはどうか」との意見がありましたので、今後検討していくこととしました。



今年度の実施結果と平成24年度実施計画(案)について検討 (第3回検討委員会)

平成24年2月22日(水)に明治の森箕面国定公園ビジターセンターで第3回検討委員会を開催しました。

当日は5名の委員に出席いただき、服部兵庫県立大学教授に座長をお願いし、今年度の実施結果及び植栽状況と平成24年度実施計画(案)について、議事を進めていただきました。

今年度の実施結果については、11月と12月に「オオクワガタの棲める森づくり」植樹祭を実施し、3月で植樹を完了する旨報告しました。

また、平成24年度実施計画について、当該事業は22年度から実施し、24年度が最終年度に当たることから、「箕面体験学習の森を広くPRするためにも、当該地での取組内容をまとめたパンフレットの作成を是非とも計画してほしい」との強い意見があり、今後検討していくこととしました。



オオクワガタの棲める森づくり

目的

箕面森林環境保全ふれあいセンターでは、北摂地域の箕面国有林において積極的な広葉樹の育成や伐採等による木材利用及び菊炭づくり体験等、子どもたちを対象とした森林環境教育のフィールドとして活用しつつ、多様性豊かな里山の再生と生物多様性の向上に資するため、「箕面体験学習の森」の整備を開始しました。

整備は主に、「箕面体験学習の森（エキスポ'90みのお記念の森）」の中心にある展望台の周辺において、かつての森を再生するため、ヒノキ、スギ林からクヌギ、コナラなどの落葉広葉樹林への転換を目指しています。

この取組は、住民参加型とし、小学生、ボランティア等により、苗木の育成、植栽、下刈等の一貫した取組を継続して行うこととしています。

特に、森林環境教育の一環として、箕面市内の小学生及び幼稚園児に苗木の育成から植栽を体験してもらい、①「森林」が豊かな体験を提供する場であること、②「森林」が正しい知識を得る場となること、③「森林」が生活や日本人とのかかわりをつくりあげていく対象となることなど、「気づかせるきっかけづくり」となることを目指しています。

実施場所

大阪府箕面市 箕面国有林「箕面体験学習の森」（エキスポ'90みのお記念の森）

全体計画

1) 植栽樹種

クヌギを中心に、コナラ、アベマキ、エドヒガン、ヤマザクラ、カスミザクラ、アカシデ、イヌシデ、リョウブ、エゴノキ、イロハカエデ、クマノミズキ、ケヤキ、エノキ、ムクノキ等の落葉広葉樹

2) 種子

ア 種子の確保

コナラなどの落葉広葉樹については、箕面国有林内、若しくは箕面国有林が所在する流域内で集めます。ただし、クヌギは、学術的に地域個体差が無いことから、上記以外で集めたものも可とします。

イ 小学校等の参加

箕面市内の小学校、幼稚園及びボランティア団体に趣旨の賛同を得て、クヌギ、コナラ等の種子を集めます。

3) 育苗

クヌギ、コナラについては、箕面市内の小学校、幼稚園及びボランティア団体等により行うとともに、その他の樹種は、地元住民及びボランティア団体等で育苗を行います。

4) 植樹

箕面市内の小学校、幼稚園、ボランティア団体及び地元住民参加により、クヌギ、コナラ等の植樹を行います。

5) 保育

伐採後の地拵、防鹿柵の設置については、NPO法人日本森林ボランティア協会等により行います。
下刈や防鹿柵の補強、除伐、間伐についてはNPO法人日本森林ボランティア協会により実施するほか、趣旨に賛同するボランティア団体、学校及び地元住民参加により実施します。

6) 台場クヌギ仕立て

クヌギ、コナラは植栽後15～20年を経過した時点で伐採し、萌芽を促すことにします。伐採した材は、炭焼きやシイタケ原木等に利用します。以降8年間隔で萌芽更新により循環するように伐採を繰り返します。

参加団体等

- | | |
|---------------------|-------------------|
| ○箕面市内の小学校、幼稚園 | ○大阪府 |
| ○箕面市内のボランティア団体 | ○近畿中国森林管理局 |
| ○箕面市内の住民 | ○京都大阪森林管理事務所 |
| ○明治の森箕面自然休養林管理運営協議会 | ○箕面森林環境保全ふれあいセンター |
| ○NPO法人日本森林ボランティア協会 | |

「オオクワガタの棲める森づくり」への参加状況

1. 苗木育成

1) 箕面市内の小学校

- ・箕面市立萱野北小学校 (H20: 1年生、2年生116名、H21: 4年生58名、※1、※2、※3)
- ・箕面市立豊川北小学校 (H20: 4年生、5年生の164名、H21: 4年生66名、※1、※2、※3)
- ・箕面市立箕面小学校 (H20: 児童、保護者36組、※2)
- ・箕面市立西南小学校 (H21: 4年生107名、※2、※3)

2) 箕面市内の幼稚園

- ・箕面市立とよかわみなみ幼稚園 (H20: 園児74名、※1、※2、※3)
- ・箕面市立とどろみ幼稚園 (H20: 園児20名、H21: 園児35名、保護者30名、※2、※3)
- ・箕面市立せいなん幼稚園 (H20: 園児33名、H21: 園児34名、※2、※3)
- ・箕面市立なか幼稚園 (H20: 園児50名、H21: 園児41名、※2、※3)
- ・箕面市立かやの幼稚園 (H20: 職員のみ、H21: 園児60名、※2、※3)
- ・箕面市立ひがし幼稚園 (H21: 園児45名、※2、※3)

3) 地域住民の参加状況 (箕面市ほか近隣地域から参加)

- ・箕面市民イベント「みどり生き生き みのお生き生き 体験フェア」
(H20: 80組、H21: 3組、H22: 15組 ※2、※3)
- ・箕面市立西南図書館 (H21: 54組、※2、※3)
- ・グリーンフェスタ2009 (H21: 56組、※2、※3)
- ・箕面市イベント「箕面の森の音楽会」(H21: 12組、※2、※3)
- ・その他の団体 (NPO法人NALC箕面40組、フォーラムみのおBGC18組、※3)

(注: ※1はドングリ拾い、※2は植木鉢への埋め込み、※3は育成)

2. 植樹

1) 小学校、幼稚園による植樹状況

- ① 箕面市立豊川北小学校
 - ・平成22年 3月23日(火) 6年生77名
- ② 箕面市立なか幼稚園
 - ・平成22年 3月23日(火) 園児39名
- ③ 箕面市立とどろみ幼稚園
 - ・平成22年 3月23日(火) 園児12名
 - 保護者等11名
- ④ 箕面市立萱野北小学校
 - ・平成22年10月29日(金) 3年生70名
- ⑤ 箕面市立なか幼稚園
 - ・平成23年 3月 4日(金) 園児49名
- ⑥ 箕面市立とどろみ幼稚園
 - ・平成23年 3月 4日(金) 園児48名



小学校・幼稚園の植樹行事(平成22年3月23日)

2) 大学による植樹状況

- ① 京都教育大学(森林環境教育セミナー)
 - ・平成22年 5月29日(土) 1回生等44名
- ② 京都大学
 - ・平成22年 9月17日(土) 大学院生15名
- ③ 大阪産業大学
 - ・平成23年 6月22日(水) 3年生等 16名



「オオクワガタの棲める森づくり」植樹祭(平成22年5月9日)

3) 地域住民による植樹状況

- 「オオクワガタの棲める森づくり」植樹祭
- ・平成22年 5月 9日(日) 157名
 - ・平成23年11月16日(水) 4名
 - ・平成23年12月11日(日) 39名



萱野北小学校の植樹行事(平成22年10月29日)

4) ボランティア団体による植樹状況

- ① 「オオクワガタの棲める森づくり」植樹祭
 - ・平成22年 5月 9日(日) 80名(9団体)
 - ・平成23年11月16日(水) 17名(8団体)
 - ・平成23年12月11日(日) 24名(6団体)
- ② 「オオクワガタの棲める森づくり」植樹作業
 - ・平成24年 3月 7日(水) 18名(5団体)

③NPO法人日本森林ボランティア協会
による森林整備活動

- ・平成22年 7月24日(土) 74名
- ・平成22年10月17日(土) 50名
- ・平成22年11月29日(月) 19名
- ・平成23年12月11日(日) 84名



ボランティア団体による植樹作業（平成23年12月11日）

3. 保育作業

○ボランティア団体による保育状況（下刈）

- ・平成23年 6月 9日(木) 27名(8団体)
- ・平成23年10月12日(水) 20名(5団体)



ボランティア団体による下刈作業（平成23年6月9日）

平成23年度の具体的な取組状況

1) 地域住民へ取組PR

地域住民に対して「オオクワガタの棲める森づくり」の取組をPRするため、4月3日(日)に大阪府豊中市及び10月23日(日)に大阪府箕面市で開催された、山とみどりの市民イベント「みどり生き生き みのお生き生き 体験フェア」に参加しました。

当日は、当取組を紹介したパネルの展示や木の円盤を使った絵描きなどの木エクラフトを実施し、多くの子どもたちに楽しんでもらいました。



円盤を使った絵描きを行う子どもたち（平成23年10月23日）

2) 地域住民・ボランティア団体を対象とした植樹行事

今年度は国連が定めた国際森林年であり、より多くの地域住民等の苗木育成者に参加いただくため、当ふれあいセンターと京都大阪森林管理事務所が主催し、明治の森箕面自然休養林管理運営協議会の協力を得て、11月16日(水)と12月11日(日)の2回、箕面国有林エキスポの森で「オオクワガタの棲める森づくり」植樹祭を開催しました。

11月16日は、苗木を育ててもらったボランティア団体から4名参加いただき、協議会の8団体から17名、当方スタッフ8名の計29名により、クヌギ・コナラ・ヤマザクラなど8種類の苗木を約600本植えていただきました。

12月11日は、「オオクワガタの棲める森づくり」の取組に賛同し、家庭等で苗木を育ててもらった家族とボランティア団体等から39名参加いただき、「箕面体験学習の森」検討委員会の委員5名、協議会の6団体から24名、当方スタッフ9名の計77名により、開会式、記念標柱の除幕式、植樹、キノコの植菌体験の日程で開催しました。

開会式では、主催者を代表して計画部長から植樹祭への参加と協力にお礼を述べるとともに、「今回の植樹祭は国際森林年記念の最後のイベントになります。安全に楽しく森づくりを行ってください」と挨拶。また、検討委員会を代表して兵庫県立大学の服部教授から、「皆さんに頑張ってクヌギなどを植えていただき、オオクワガタがたくさん取れるような森をつくってください」と挨拶していただきました。その後、植樹会場に移動し、検討委員会の委員と子どもたちによる記念標柱の除幕式を行い、植樹方法の説明後、参加者に実際に植樹してもらい、クヌギ・コナラ・ヤマザクラなど6種類の苗木を225本植えていただきました。

植樹後は、当地で伐採したサクラ・クヌギの丸太を使い、なめことしいたけの駒菌を打ち込む体験をしてもらいました。参加者からは「またこういう行事があれば参加したい」との感想も聞かれ、閉会において当方から、「植樹は今年度で終わりますが、かつての箕面の森と言われる、菊炭を生産する台場クヌギ仕立ての森やオオクワガタなどの昆虫が棲む森を再生するため、今後も下刈りなどの保育作業を実施していきますので、引き続き応援をお願いします」と挨拶し、植樹祭を終了しました。



記念標柱の除幕式の様子（平成23年12月11日）



親子による植樹の様子（平成23年12月11日）



キノコの植菌体験の様子（平成23年12月11日）

3) ボランティア団体による下刈作業

「オオクワガタの棲める森づくり」の植樹箇所では、生長の早いカラスザンショウ・アカメガシワなどが繁茂し、植樹したクヌギ・コナラなどの苗木の生長を阻害したり、トゲのあるカラスザンショウなどは植樹の際、参加者の手を傷つけることが懸念されるため、当ふれあいセンターと京都大阪森林管理事務所が主催し、明治の森箕面自然休養林管理運営協議会の協力を得て、6月9日(木)と10月12日(水)の2回、下刈作業を実施しました。

6月9日は協議会の8団体から27名と当方スタッフの9名の計36名、また、10月12日は協議会の5団体から20名と当方スタッフの8名の計28名に従事してもらい、鋤を使ってカラスザンショウ・アカメガシワなどの抜き取りを行い、綺麗に処理していただきました。



鋤を使った下刈作業の様子（平成23年10月12日）

4) その他の取組

①残存木の伐採

「オオクワガタの棲める森づくり」の植樹箇所では、クヌギ・コナラなどの広葉樹やマツを伐採せず残していましたが、スギ・ヒノキを伐採後、風の影響で傾いたり枯れかけのものが出てきたことから、植樹や通行の際の安全を考慮し、7月に請負で伐採を実施しました。

なお、伐採の対象になったクヌギは、将来台場仕立てとなるよう高伐りにするとともに、玉切った丸太はコナラ・ヤマザクラとともにこま切りにし、12月11日開催の植樹祭で、キノコの植菌体験に活用しました。



台場仕立てを見越し高伐りしたクヌギ

②植生調査

「オオクワガタの棲める森づくり」の植樹箇所において、スギ・ヒノキ伐採後の下層植生の発生状況を調べるため、8月2日(火)に「箕面体験学習の森」検討委員会の委員である兵庫県立大学の服部教授と清水谷を守る会の鎌谷代表にご指導いただき、植生調査を実施しました。

当調査は、あらかじめ設定したプロット(10m×10m)において発生した稚樹と草本の占有面積を調べ、プロット内に稚樹が49種、草本が17種存在しました。その結果については、今後「オオクワガタの棲める森づくり」を取り組もうえでの貴重なデータとして、保存・活用していくことにしています。



植生調査の様子(平成23年8月2日)

おわりに

今年度は昨年度から実施してきた、クヌギ・コナラなどの苗木を家庭等で育ててもらった地域住民・ボランティア団体等による「オオクワガタの棲める森づくり」の植樹行事を11月から実施し、3月までで完了することができました。

来年度からは、2年間で植樹したクヌギ・コナラなどの苗木と、自然に生えた稚樹も同様に育てていくことで、下刈りなどの保育作業を引き続き実施し、10数年後からは順次台場仕立てにしていく予定であり、今後もボランティア団体や教育機関、地域住民の方々とも連携を図りながら、箕面国有林(箕面体験学習の森)を子どもたちの森林環境教育のフィールドとして、長期にわたって有効に活用できる取組を続けて行こうと考えています。



台場クヌギ



オオクワガタ



ヒラタクワガタ

大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策

趣旨

三重県と奈良県の県境に位置する大台ヶ原一帯では、ニホンジカの個体数が急激に増加したことで、ミヤコザサの分布拡大が進んでいる。

また、現在、増加したニホンジカとその他の複合的な要因により森林の衰退が進んでいる。

本調査の対象地である三重森林管理署管内の大杉谷国有林は、大台ヶ原山の北東側に位置し、冷温帯性落葉広葉樹林や亜高山帯性の針葉樹林が分布し、原始的な状態を呈しており、学術的に貴重な森林であり、その一部は大杉谷森林生態系保護地域に指定されている。近年は、高木の枯損やササ原化が進行するとともに、スギ、ヒノキの植栽地においては植栽木はもとより林床植生が消失し、一部で土砂流出や林地崩壊現象が見られるほか、天然林においても高木層の消失により生物多様性が著しく損われるなど、森林生態系への影響が深刻化している。

このため、ニホンジカによる森林被害の対策とニホンジカ保護管理計画を一体的に進めていく必要があることから、箕面森林環境保全ふれあいセンターと国有林を所管している三重森林管理署が、環境省、三重県、奈良県、関係町村、NPO法人等と連携して実証試験を行い、「大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策指針」（以下「森林被害対策指針」という。）を作成するとともに、ニホンジカによる森林被害地における森林の再生及び保全のためのモデル事業を実施することとする。

事業内容

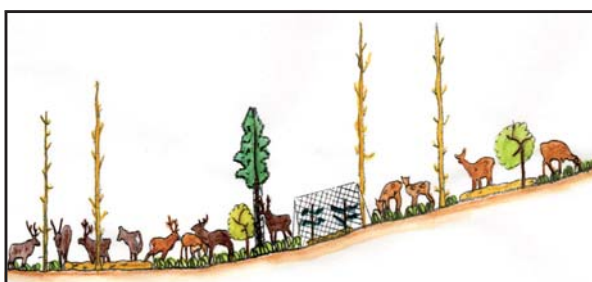
1 場所

三重県多気郡大台町 大杉谷国有林

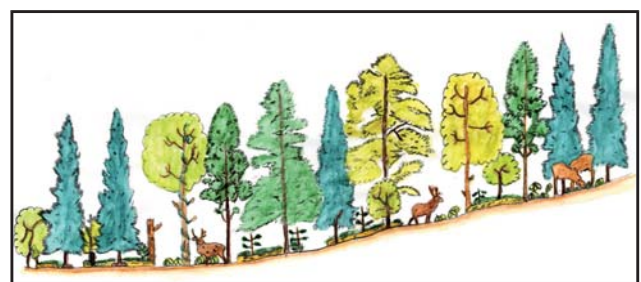
2 内容

「大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策指針検討ワーキングチーム」を設置し、以下の項目を総合的に検討して「被害対策指針」を作成する。

- (1) 「大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策指針検討ワーキングチーム」会合の開催
- (2) 共同試験地の調査及び維持
- (3) 森林の再生及び保全のためのモデル事業の実施
- (4) 普及啓発の実施
- (5) モニタリング調査














現在

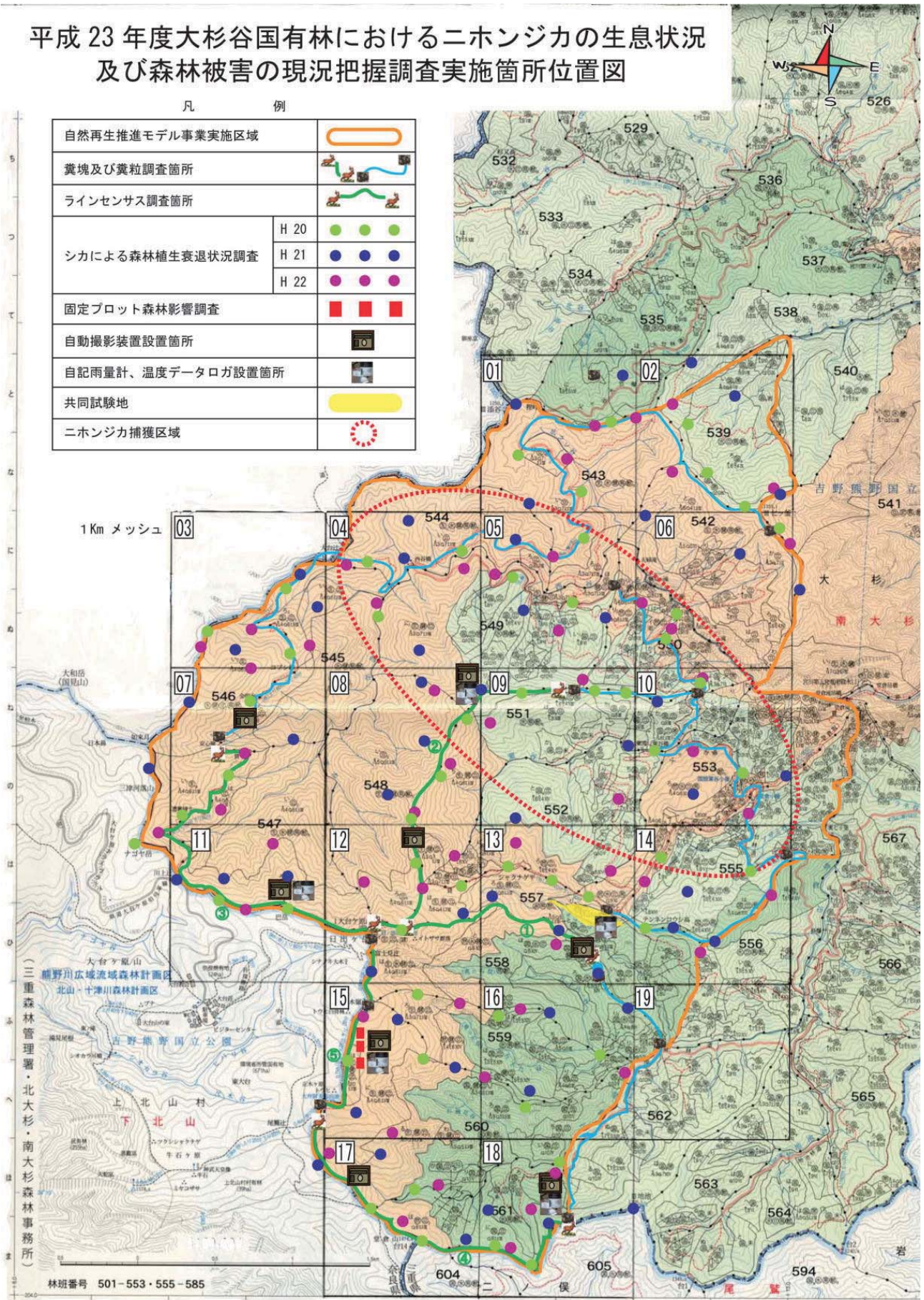


将来

平成 23 年度大杉谷国有林におけるニホンジカの生息状況 及び森林被害の現況把握調査実施箇所位置図

凡 例

自然再生推進モデル事業実施区域	
糞塊及び糞粒調査箇所	
ラインセンス調査箇所	
シカによる森林植生衰退状況調査	H 20 
	H 21 
	H 22 
固定プロット森林影響調査	
自動撮影装置設置箇所	
自記雨量計、温度データログ設置箇所	
共同試験地	
ニホンジカ捕獲区域	



大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策指針 検討ワーキングチーム会合

ワーキングチーム委員（五十音順、敬称略）

【学識経験者委員】

氏 名	所属・職名
柴田 叡弼	名古屋大学 名誉教授（座長）
高田 研一	NPO法人 森林再生支援センター 常務理事
高橋 裕史	(独)森林総合研究所関西支所 生物多様性研究グループ 主任研究員
日野 輝明	名城大学農学部 生物環境学科 環境動物学研究室 教授
福本 浩士	三重県林業研究所 森林環境研究課 主任研究員
前迫 ゆり	大阪産業大学大学院 人間環境学研究科 教授

【地元関係者委員】

氏 名	所属・職名
内田 克宏	(社)三重県猟友会 会長
森 正裕	NPO法人 大杉谷自然学校 事務局長

【オブザーバー】

<p>三重県、奈良県、三重県大台町、三重県紀北町、奈良県上北山村、奈良県川上村 環境省近畿地方環境事務所 (独)森林総合研究所林木育種センター関西育種場</p>
--

【近畿中国森林管理局】

<p>近畿中国森林管理局 計画部長、企画官(自然再生担当)、森林施業調整官、指導普及課保護林係長、 国有林野管理課企画係長、森林整備課保護係長 三重森林管理署(署長、流域管理調整官) 奈良森林管理事務所(所長) 箕面森林環境保全ふれあいセンター(所長、自然再生指導官<自然再生担当、森林ボランティア担当>)</p>

大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策 (ワーキングチーム会合)

平成24年2月29日(水)に三重県津市内で、大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策指針を検討するため、学識経験者、地元関係者、関係行政機関、国有林職員によるワーキングチーム会合を開催しました。

当日は、名古屋大学名誉教授の柴田叡弍氏に座長をお願いし、議事を進めていただき、調査委託先及び当ふれあいセンターの担当から、①平成23年度大杉谷国有林におけるニホンジカの生息状況及び森林被害の現況把握調査結果(平成23年度報告書案)、②平成24年度大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策実施計画(案)について順次説明し、検討を行いました。

平成23年度調査では、今までのラインセンサス調査、糞塊密度調査、センサーカメラ調査、ニホンジカによる森林植生衰退状況調査、固定プロット森林影響調査、微気象の観測に、GPSテレメトリー調査、植生図の作成、環境省の大台ヶ原自然再生事業と連携した糞塊・糞粒調査を追加して実施したところです。このうちセンサーカメラ調査では、調査区域の19メッシュ全てに自動撮影装置を設置し撮影を実施したところ、全てのメッシュでニホンジカが撮影されていたことが報告されました。

なお、当会合で委員からいただいた意見等については、報告書に反映させ、最終の取りまとめを行うこととしました。

また、平成24年度調査では、今年度にGPS首輪を装着したニホンジカ4頭について、引き続き移動状況の調査・分析を実施するほか、当該事業は平成20年度から実施し平成24年度が最終年度に当たることから、「来年度は、当該事業の実施目的である森林被害対策指針の作成に重きを置き進める必要があるため、今後ご指導ご鞭撻をお願いしたい」と述べ、当会合を終了しました。



ワーキングチーム会合での検討の様子

平成23年度の調査概要

1. ラインセンサス調査
ニホンジカの生息密度に関する季節変化等を把握するための調査
2. 糞塊及び糞粒調査
ニホンジカの生息密度を把握するための調査
3. センサーカメラ調査
ニホンジカ等中大型哺乳類の生息状況を調査するため、自動撮影装置を設置し撮影
4. GPSテレメトリー調査
ニホンジカにGPS首輪を装着し、移動状況の調査・分析
5. ニホンジカによる森林植生衰退状況調査
事業区域を1kmメッシュで19区画設け、各区画内でランダムに3箇所調査
6. 固定プロット森林影響調査
(1) 正木ヶ原周辺に30m四方のプロットを3箇所設定し、立木及び稚幼樹の調査
(2) 生育している稚幼樹のうち、半数は3m四方の防護柵で囲み、残りの半数は囲まずに対比
7. 植生図の作成
空中写真と上記5の調査結果等を活用し、優先種区分による植生図(1万分の1)の作成
8. 自記雨量計及び温度データログによる微気象観測

自動撮影装置による生息状況調査結果

メッシュNo. 1



2011. 10. 3 ニホンジカ：成獣オス

メッシュNo. 4



2011. 11. 15 ニホンジカ：成獣メスと幼獣

メッシュNo. 5



ツキノワグマ（左下）

メッシュNo. 7



2011. 10. 3 ニホンジカ：成獣メス

メッシュNo. 9



2011. 10. 29 イノシシ4頭

メッシュNo. 9



2011. 9. 27 アナグマ（右下）

メッシュNo. 9



2011. 9. 29 ニホンリス (左下)

メッシュNo. 9



2011. 10. 17 コウモリ

メッシュNo. 11



2011. 11. 1 ニホンジカ : 成獣オス

メッシュNo. 12



2011. 9. 28 タヌキ

メッシュNo. 12



2011. 10. 25 テン

メッシュNo. 13



2011. 10. 13 ニホンザル (右上)

メッシュNo. 15



2011. 11. 17 キツネ

メッシュNo. 16



2011. 10. 1 ノウサギ

メッシュNo. 17



2011. 9. 29 ニホンジカ：成獣メス

メッシュNo. 18



2011. 10. 26 ニホンジカ：成獣オス

※上記のメッシュNoは、平成23年度大杉谷国有林におけるニホンジカの生息状況及び森林被害の現況把握調査実施箇所位置図(P13)上の番号である。

関係機関等との連携

年月日	内 容	主催者等	場 所
H23. 8. 23	大台ヶ原・大杉谷ニホンジカ保護管理連絡協議会への参画	環境省近畿地方環境事務所	大阪市
H23. 10. 18	大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会 第1回森林生態系・ニホンジカ保護管理合同部会への参画	環境省近畿地方環境事務所	奈良県橿原市
H24. 1. 11	大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会 第2回森林生態系部会への参画	環境省近畿地方環境事務所	奈良県橿原市

推 進 体 制

大台ヶ原・大杉谷ニホンジカ保護管理連絡会議

一 環境省近畿地方環境事務所

└ 大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会

└ 森林生態系部会

└

|

└ 植生保全対策WG (両部会合同)

└ ニホンジカ保護管理部会

- ・ 委 員：有識者等
- ・ 関係機関：近畿中国森林管理局、奈良県、三重県、
上北山村、猟友会、森林組合

一 近畿中国森林管理局

└ 大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策指針検討ワーキングチーム

- ・ 委 員：学識経験者、地元関係者
- ・ オブザーバー：三重県、奈良県、大台町、紀北町、上北山村、川上村
環境省近畿地方環境事務所
(独) 森林総合研究所林木育種センター 関西育種場

一 奈良県

一 三重県

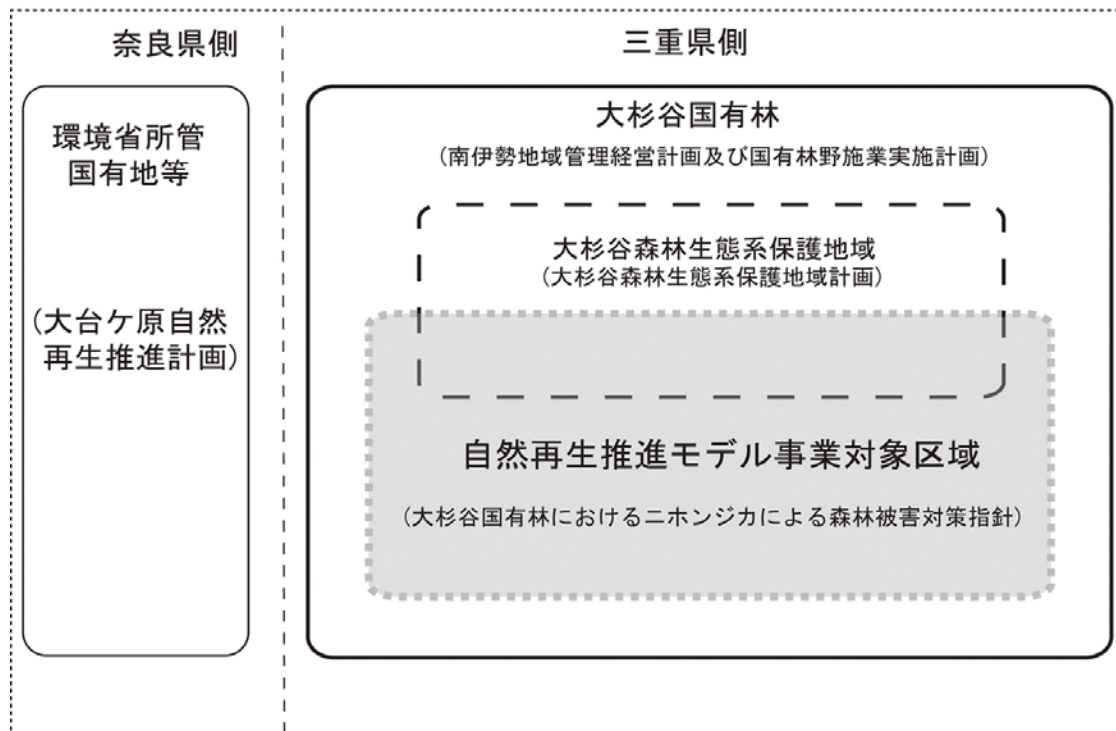
一 上北山村

一 川上村

一 大台町

一 紀北町

大杉谷国有林における「自然再生推進モデル事業」の対象区域



伊崎国有林の森林植生回復対策・カワウ対策支援

滋賀森林管理署への支援

年月日	内 容	場 所
H24. 2. 8	平成23年度伊崎国有林の取扱いに関する検討におけるワーキンググループ会合への参画	滋賀森林管理署



伊崎国有林のカワウの営巣状況（白く見えるのはカワウの糞）

教員向けの森林環境教育手引書の作成

趣旨

今日、循環型社会の構築を進めるうえで、また、子どもたちの「生きる力」を育むうえで、森林のもつ様々な機能について体験活動を通じて学び、理解を深めることが広く求められています。

このため、箕面森林環境保全ふれあいセンターでは、平成17年度から19年度までの3年間で、発達段階に応じた「森林環境教育プログラム(子ども向け)」の作成に取り組みました。

また、平成21年度には、各道府県やボランティア団体、森林管理署等から収集した森林環境教育に関する様々な事例の中から、平成20年3月に改訂された小学校の学習指導要領に即し、34事例を選定・秀抜した「森林環境教育推奨事例集」を作成したところです。

こうした体験プログラムや事例集のようなものをより確実かつ広範に推進し、実働性を上げていくためには、学校教育のとりわけ小学校の学習指導要領に示された、各学年段階における各教科の指導内容に対応した森林環境教育の指導計画を明確に示すことが必要と考えます。

このことから、教育関係者等の専門家からなる「森林環境教育手引書製作検討委員会」を設置し、小学校の低・中・高学年に対応した教員向けの「森林環境教育手引書」の作成に取り組みました。

実施内容

- (1) 森林環境教育における指導内容の整理
- (2) 森林環境教育手引書製作検討委員会の開催
- (3) 教員向けの森林環境教育手引書の作成

森林環境教育手引書製作検討委員会

委員（五十音順、敬称略）

氏名	所属・職名
岡本 洋子	京都市立洛央小学校 教諭
立花 禎唯	高槻市立高槻小学校 教諭
波多野達二	林業家、京都教育大学附属京都小学校 非常勤講師
山下 宏文	京都教育大学 教授（座長）

森林環境教育手引書製作検討委員会の開催

- ・日時：平成24年1月31日(火)
- ・場所：京都教育大学
(京都市伏見区深草藤森1)



製作検討委員会での検討の様子

当センター主催による活動

森林環境教育セミナー

森林環境教育セミナーは、学校教育における森林環境教育の導入を推進することを目的として、箕面市教育委員会との共催により平成17年度から実施しており、今回で7回目の開催となります。

今回は8月10日(水)に箕面国有林勝尾寺園地で、箕面市等の小・中学校の先生に幼稚園の先生も加わり計23名に参加してもらい、京都大阪森林管理事務所とボランティア団体の協力を得て実施しました。

今回のセミナーの内容は、従来の京都教育大学の山下宏文教授による講義、箕面森林官による箕面国有林の概要説明、間伐体験に加え、当ふれあいセンターで作成した森林環境教育推奨事例集の中から間伐に付随した事例を実践してもらいました。

小・中学校、幼稚園の先生を対象とした 森林環境教育セミナーの取組状況



講義「森林環境教育の重要性と進め方」
(講師：山下宏文京都教育大学教授)



箕面国有林の概要説明(箕面森林官)



ボランティアの指導のもと間伐・枝払いを体験



スギの樹高を目測



伐りだしたヒノキ丸太にナメコを植菌



輪切りしたヒノキの年輪を数える

セミナーの終わりには一日を振り返ってもらい、参加した先生からは、間伐を体験して「木を伐り倒す体験はめったにできないことでよい経験になった」、全般としては「子どもたちにも自然の中に入って、木にさわったり葉にさわったりして自然に近づく体験をしてほしい」などの感想が聞かれ、今回楽しく体験したことや推奨事例集の楽しい事例を、学校の授業等を通して先生から子どもたちに伝えていただくことを期待するところです。

大学生を対象とした体験林業

6月22日(水)に箕面国有林エキスポの森において、大阪産業大学人間環境学部3年生16名を招いて体験林業を実施しました。

当日は授業の一環ということで午後からの短い時間でしたが、箕面森林官による国有林の概要説明からはじまり、「オオクワガタの棲める森づくり」の植樹体験として、将来きれいな花が咲くことを祈り、ウワミズザクラを25本植樹していただきました。その他にも当ふれあいセンターで作成した森林環境教育推奨事例集の中から、専門器具を使い木の葉から二酸化炭素と酸素の量の測定や木の円盤など森の恵みを使った木工クラフトも体験してもらい、今回参加した皆さんは国有林に来るのも、こういった体験をするのも全てが初めてであり、興味津々楽しんでいただいたと思います。

最後に計画部長から、国際森林年のPRとともに、「植樹した苗木を大きく育てるには下刈りなどの手入れを行っていく必要があるので、そういった作業にも参加してもらいたい」とお願いし、体験林業を終了しました。



箕面森林官が国有林の概要を説明



木の葉から二酸化炭素と酸素の量を測定



苗木を植え替える再生紙段ボール鉢を作製



現地にて植樹作業を体験



一列に仲良く並んで植樹作業を実施



木の円板などを使い木工クラフトを体験

森林管理事務所への支援

夏休み親子木工教室

7月28日(木)・29日(金)の2日間、近畿農政局と京都大阪森林管理事務所の共催による「夏休み親子木工教室」が京都農林水産総合庁舎内で開催され、当ふれあいセンターは支援を行いました。

この木工教室は小学生を対象として、木工を通じ木に親しんでいただくことを目的に平成13年から行っているもので、今年は京都市内に住む親子30組68名が参加しました。

子どもたちは、職員が準備した木の円盤やどんぐり、小枝などの材料を利用して、思い思いに想像力を働かせ、創作を行いました。

今回はジャンボ松ぼっくり(大王松など)も材料に加えました。子どもたちの手にかかる、「部屋のネームプレート」や「パンダ」などの作品が次から次にでき上がりました。



養護学級の児童を対象とした森林教室

8月20日(土)に京都大阪森林管理事務所は、箕面市立障害者福祉センター「ささゆり園」で養護学級に在籍する児童と保護者あわせて96名を対象に森林教室を開催し、当ふれあいセンターは支援を行いました。

子どもたちは、木の輪切りや松ぼっくりなどの材料を手で親子で一生懸命に作品づくりに取り組みました。

加工コーナーのスタッフは、板に車軸の穴を空けるなどの難しい注文に大忙しでしたが、子どもたちの一生懸命の姿に喜びを感じました。



箕面市内の幼稚園児を対象とした森林教室

京都大阪森林管理事務所は、11月19日(土)に箕面市立ひがし幼稚園、11月20日(日)に箕面市立なか幼稚園で開催された「製作展」に木工教室コーナーを出展し、当ふれあいセンターは支援を行いました。

両幼稚園とも、丸太の輪切りや木片・どんぐり・松ぼっくり・小枝などを使って自由に工作をしていただきました。

それぞれに素敵な作品ができ上がり、園児たちも満足満面でした。自然の贈り物で作った作品を、いつまでも親子で大切にしてほしいと思います。



当センター主催による活動

年月日	対象者名	人数(名)	実施内容
H23. 6. 22	大阪産業大学の大学生	16	植樹・推奨事例集を活用した事例の実践
H23. 8. 10	箕面市・豊中市の小・中学校の先生及び箕面市の幼稚園の先生	23	講義「森林環境教育の重要性と進め方」、間伐体験、推奨事例集を活用した事例の実践

森林管理事務所への支援

年月日	対象者等	人数(名)	実施内容
H23. 7. 28 29	京都市内の小学生と保護者	68	パワーポイント「森林のはたらき」、木工クラフト
H23. 8. 20	箕面市内の養護学級の児童と保護者	96	木工クラフト
H23. 11. 19 20	箕面市内の幼稚園児と保護者	340	木工クラフト



森林ボランティア活動への支援

森林ボランティアリーダー養成スクールフォローアップ事業

趣旨

国民の3人に2人はボランティア運動への参加意欲をもっているなど、国民の社会参加意識の高まりに加え、ボランティア活動への理解と環境問題への関心が高まり、近年、多様な主体による森林づくり活動が活発化しています。

これまで近畿中国森林管理局においては、これらの森林ボランティアへの支援活動として、各森林ボランティア団体のリーダーとなるべき人材の育成を目的に、平成12年度から「森林ボランティアリーダー養成スクール」を実施し、基礎的な安全管理に関する知識・技術に加え、植生、土壌、育林、森林計画、林産、木材利用など森林・林業の基礎分野の知識の講義等を行い、延べ150余名のリーダーを養成してきました。

箕面森林環境保全ふれあいセンターでは、平成21年度に取り組んだ養成スクール修了生へのアンケート調査結果の取りまとめ及び分析に基づき、これまでの養成スクールの実施内容等を検証し、各ボランティア団体の指導内容を情報収集してきたところです。

その結果、森林ボランティア活動を行うための指導内容は、ボランティア団体によって様々で古い情報もあることから、多岐化する森林・林業及び環境に対するフレキシブルで、かつ視覚性に富んだボランティア活動指導の指針となる指導集を作成するものです。

実施内容

- (1) 各ボランティア団体の技術指導集の収集
- (2) 各ボランティア団体のカリキュラムの内容調査及び共通項目の抽出

モデルカリキュラムの項目

「間伐」、「各種造林作業」、「林業機械」、「安全管理」、「刈払機」、「竹林整備」、「里山整備」、「森林ボランティアとは」、「視察」など

グループ対抗 里山デジカメ選手権

もり

テーマ:身近な森林の再発見!!

日本の原風景の一つである里山は、薪炭材の伐採や落葉の採取など人の手が入ることによって地域特有の景観を形成するとともに、多様な生態系の保全にも寄与してきました。

しかしながら、戦後の燃料革命や化学肥料の普及などを背景として次第に放置されるようになり、竹の侵入や野生鳥獣若しくは森林病害虫の発生温床となるなど、その荒廃が深刻化しています。

このような中で、荒廃した里山を再生させるためのボランティア活動の輪が次第に広がっており、更に地域の人々を含む幅広い国民の参画を促していくことが重要な課題となっています。

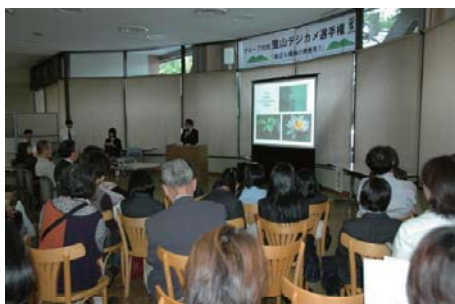
箕面森林環境保全ふれあいセンターでは、このような里山などの保全・再生を重要な活動の一つとしています。この里山デジカメ選手権は、里山に暮らす動植物や森林づくり活動、森林環境教育活動などの撮影を通じて、里山の現状や役割を多くの人に伝えることを目的とし、今回で5回目となり、今年度は国連が定める国際森林年にあたることから、そのテーマである「森を歩く」に関連する作品も追加しました。

今年度も「身近な森林の再発見!!」をメインテーマに、写真3枚1組を1作品として募集したところ、東は東京都、西は広島県までの15都府県から、学校、森林・林業活動グループ、企業・家族など69グループの作品が寄せられました。

これらの作品については、一次審査により30グループが選定され、最終審査に進みました。

最終審査会は、10月8日(土)に「水都おおさか森林の市2011」会場の近畿中国森林管理局1階「こもれび」及びOAP特設ステージにおいて、写真家の今森光彦氏、農学博士の只木良也氏及びフリーアナウンサーの青山佳世氏を審査員にお迎えし、公開による作品の展示とグループ代表による日頃の活動や作品の説明、里山への熱い思いのスピーチをしていただきました。

その結果、最優秀賞(林野庁長官賞)1点、水都おおさか森林の市実行委員会賞1点、優秀賞(近畿中国森林管理局長賞)7点に、国際森林年特別賞1点を加えた計10点の入選作品を決定し表彰しました。



局「こもれび」での発表の様子



審査会場前に一次審査通過の30作品を展示



各グループの発表が終わり審査する様子



OAP特設ステージでの表彰式の様子

最優秀賞（林野庁長官賞）

タイトル「さとやまの雨」



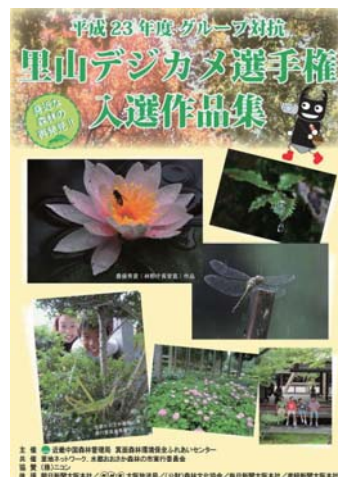
水都おおさか森林の市実行委員会賞

タイトル「自然がくれた笑顔」



国際森林年特別賞

タイトル「森を歩く」



※詳細については、当ふれあいセンター発行の「平成23年度グループ対抗里山デジカメ選手権入選作品集」をご覧ください。（当ふれあいセンターのホームページでもご覧いただけます。）

箕面森林環境保全ふれあいセンター運営推進懇談会

趣旨

森林環境保全ふれあいセンターは、国有林野を活用し、地域住民、NPO等が行う自然再生活動、生物多様性の保全等や森林の有する多面的機能の発揮についての理解を深めるために、教育関係者等が行う森林環境教育等に対して技術的指導その他支援等の取組を行う拠点として設置されました。

当ふれあいセンターでは、森林づくり活動や自然再生活動を行っているNPO及び森林環境教育を推進している教育関係者等の要望を的確に反映した取組等を行うため、当ふれあいセンターの運営に関して、学識経験者、森林ボランティア活動を行っている者及びマスコミ関係者をメンバーとする懇談会を設置し、懇談会等からの意見及び要望等を反映させた対話型の取組、ふれあいセンターの効率的な運営を推進することとしています。

テーマ

- ボランティアによる森林整備活動に関すること
- 自然再生に関すること
- 森林環境教育支援活動に関すること
- 情報の受発信に関すること

懇談会委員（五十音順、敬称略）

- ・ 金井久美子（NPO法人地球緑化センター事務局次長）
- ・ 北出 昭（毎日新聞社大阪本社代表室委員兼毎日21世紀フォーラム事務局長）
- ・ 山下 宏文（京都教育大学教授）

平成23年度第1回懇談会

10月17日(月)に近畿中国森林管理局会議室で、当ふれあいセンターの効率的な運営を推進するため、今年度第1回目の運営推進懇談会を開催しました。

会議では当ふれあいセンターの今年度の活動状況について、各担当指導官から説明を行いました。

委員からは、森林環境教育手引書に教材として添付する図表や写真・動画について、「美しい森林は見て美しいが、生活とのつながりというのは目に見えない。それを映像でどういうふうに見せるか難しいと思うが、そこに力を入れてほしい」、小・中学校、幼稚園の教員を対象に実施した森林環境教育セミナーについては、「子どもの時に先生も含めて、身近な里山のようなところで自然にふれ、感性を育てていく場をつくってほしい」、また、住民参加型で植樹等に取り組む「オオクワガタの棲める森づくり」については、「市民が自分でドングリから育て森づくりをすることが、シカなどの外的要素も加わり、いかに大変かということを伝えることが大切である」などの意見等がありました。

当方から、「本日はいただいた意見等は、今後の当ふれあいセンターの活動に活かしていきたい」と述べ、懇談会を終了しました。



第1回懇談会での意見交換の様子

平成23年度第2回懇談会

平成24年3月2日(金)に近畿中国森林管理局会議室で、第2回運営推進懇談会を開催しました。

会議では、当ふれあいセンターから、平成23年度の活動実績及び平成24年度の活動計画(案)について説明し、委員等との意見交換を行いました。

委員からは、大杉谷国有林におけるニホンジカの森林被害対策について、「大杉谷国有林で行っていることをもっと一般の人にも知ってもらい、みんなで森林を再生していくことが大切である」、教員向けの森林環境教育手引書について、「せっかくいいものを作ったのだから、広く使ってもらえるようPRをしてほしい」、また、グループ対抗里山デジカメ選手権について、「作品の応募が増えるようPRを工夫されたい」などの意見等がありました。

これらの意見等は十分検討し、来年度の取組に活かしていきたいと考えています。

各種活動

年月日	内 容	相手方・協力者等	場 所
H23. 4. 3	山とみどりの市民イベント「みどり生き生き みのお生き生き 体験フェアinせんちゅうパル」への参加（オオクワガタの棲(す)める森づくり）	実行委員会・箕面市ほか	豊中市
H23. 4. 21	明治の森箕面自然休養林管理運営協議会第16回例会への出席	森林ボランティア団体・大阪府・箕面市ほか	箕面市
H23. 5. 19	明治の森箕面自然休養林管理運営協議会総会・第17回例会への出席	森林ボランティア団体・大阪府・箕面市ほか	箕面市
H23. 7. 3	「大切な森林を守ろう」フォーラム2011への出席	阪急阪神交通社	大阪市
H23. 7. 19	明治の森箕面国定公園保護管理運営協議会第1回幹事会への出席	大阪府・箕面市	箕面市
H23. 7. 21	明治の森箕面自然休養林管理運営協議会第18回例会への出席	森林ボランティア団体・大阪府・箕面市ほか	箕面市
H23. 8. 2	大阪府内国有林野等所在市町村長協議会への出席	大阪府・国有林野等所在市町村	大阪市
H23. 8. 11	明治の森箕面国定公園保護管理運営協議会総会への出席	大阪府・箕面市ほか	箕面市
H23. 9. 15	明治の森箕面自然休養林管理運営協議会第19回例会への出席	森林ボランティア団体・大阪府・箕面市ほか	箕面市
H23. 9. 15 16	野生鳥獣による森林生態系への被害対策技術開発事業第1回ワークショップへの出席	林野庁	三重県大台町
H23. 10. 20	明治の森箕面自然休養林管理運営協議会第20回例会への出席	森林ボランティア団体・大阪府・箕面市ほか	箕面市
H23. 10. 23	山とみどりの市民イベント「みどり生き生き みのお生き生き 体験フェアinかやの広場」への参加（オオクワガタの棲(す)める森づくり）	実行委員会・箕面市ほか	箕面市
H23. 12. 3	箕面の山大掃除大作戦への参加	森林ボランティア団体・箕面市ほか	箕面市
H23. 12. 15	明治の森箕面自然休養林管理運営協議会第21回例会への出席	森林ボランティア団体・大阪府・箕面市ほか	箕面市

年月日	内 容	相手方・協力者等	場 所
H23. 12. 27	「学校林・遊々の森」全国子どもサミットin京都 実行準備会への出席	林野庁・森林インストラクター会ほか	京都市
H24. 1. 27	「学校林・遊々の森」全国子どもサミットin京都 実行委員会への出席	林野庁・森林インストラクター会・京都市ほか	京都市
H24. 2. 16	明治の森箕面自然休養林管理運営協議会第22回例会への出席	森林ボランティア団体・大阪府・箕面市ほか	箕面市
H24. 2. 27	希少動植物種データベース運用説明会への出席		森林管理局
H24. 2. 28	明治の森箕面自然休養林管理運営協議会による防鹿ネット張りへの支援	森林ボランティア団体	箕面国有林

箕面森林環境保全ふれあいセンターの仕事

主な活動

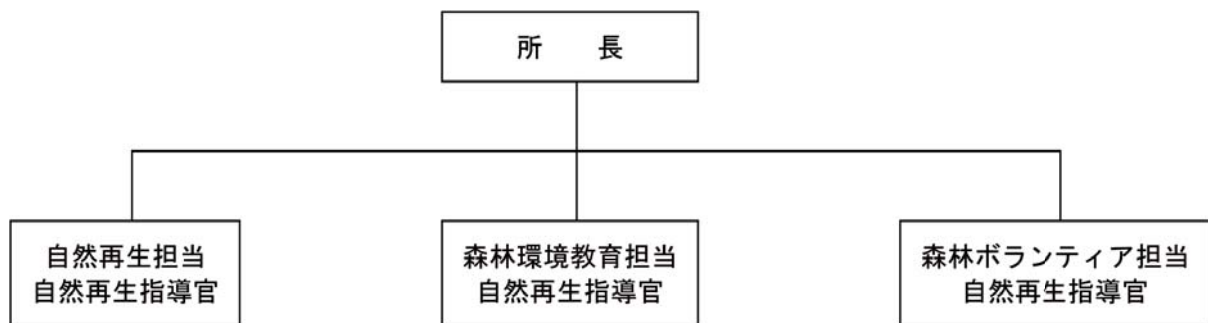
主な活動としては、自然再生への取組、森林ボランティア活動や森林環境教育活動への支援などです。

活動フィールド

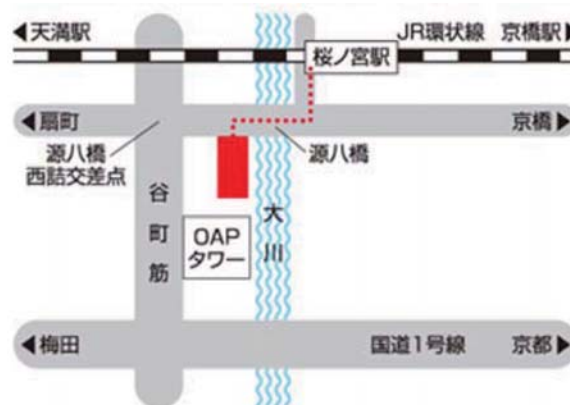
大阪府と京都市にある国有林が主な活動フィールドです。

なお、近畿中国森林管理局管内全域において、ニーズ把握を行い、必要に応じてそれらのニーズを踏まえた活動を展開しています。

役割分担



センターへの行き方



J R大阪環状線「桜ノ宮駅」下車、西出口から徒歩5分

平成24年3月

林野庁 近畿中国森林管理局 箕面森林環境保全ふれあいセンター

〒530-0042 大阪府大阪市北区天満橋一丁目8番75号

近畿中国森林管理局内

電話：06-6881-2013 FAX：06-6881-2055

ホームページ http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/